ダブルシフト

パパの子育て奮闘記

育児が楽しいってホント？

私は仕事に復帰するから、明日からあなたが父親休暇を取るのよ

監督：マリア・エッセーン Maria Essen

製作／レナート・デューネル Producer: Lennart Duner
製作総指揮／ペッテル・クロペニン、トーマス・エスキルソン、HP ルンド、キム・マグヌッソン
Executive Prducer: Peter Kropenin, Tomas Eskilsson,HP Lundh & Kim Magnusson
脚本／ステファン・アンヘム Screenplay: Stefan Ahnhem
撮影／P.A.スヴェンソン Cinematography: P.A. Svensson
照明／ダニエル・サクスリド Light: Daniel Saxlid
音楽／マグヌス・フリクベリ Music: Magnus Frykberg
出演／パパ：エリック・エリクソン Eric Ericson
ママ：リサ・ヴェリンデール Lisa Werlinder

ダブルシフト
パパの子育て奮闘記

スウェーデン式父親の育児日記

映画「ダブルシフト―パパの子育て奮闘記」を見よう、語ろう＆考えよう

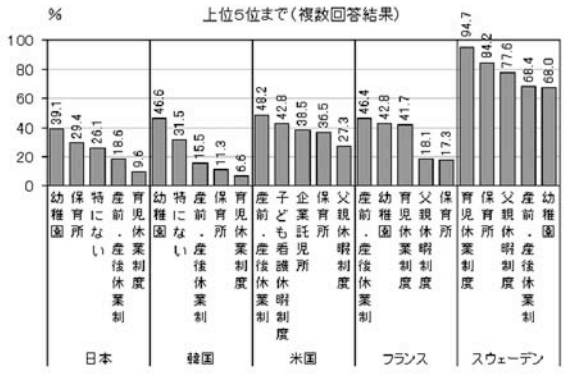
企画趣旨●

「ダブルシフト～パパの子育て奮闘記」（原題：som man baddar、89分、マリア・エッセーン監督）は05年にスウェーデンで初公開され、同年9月の「あいち国際女性映画祭」で日本に紹介されて話題を呼びました。その後はアメリカ、イタリア、インド、アフリカなど世界各地の映画祭でも上映され絶賛された作品です。映画のテーマになっている父親の子育てや育児休暇取得はすでにスウェーデンではあたりまえですが、女性の育児休暇や職場復帰の環境が整わず少子化が進む日本では、今ようやく父親の育児休暇取得が注目され始めたところです。

因にスウェーデンでは女性の約80%が仕事を持っているにも関わらず出生率は1.75で、専業主婦が多い日本の1.25を上回ります。さらにスウェーデンの男性の77.6%が育児休暇をとるのに対して日本では0.44%。今後、真剣に少子化対策と男女共同参画社会の実現を課題にしていかなければならない日本社会にとって、スウェーデンの社会制度を背景にしたこの作品には学ぶべき点が多いのではないでしょうか？

06年4月末、上映会のスタート時に来日したエッセーン監督は「スウェーデンでも今のように男性が育児をするのに40年もかかっています。この映画を見て楽しんでいただき、さらに日本でも男性の育児休暇取得が増加し、よりよい家庭環境を築くきっかけになれば嬉しいです。育児にルールはありません。その人らしい方法で子供とコミュニケーションをとり、成長を見守ってあげることが一番なのです」と語っています。

子育てにあたって利用した制度（子育て経験者に質問）



（注）調査対象は各国20～49歳男女約1000人
（資料）内閣府「少子化に関する国際意識調査」（2005年10～12月調査）

ダブルシフト
パパの子育て奮闘記

作品紹介

「ダブルシフト―パパの子育て奮闘記」はマリア・エッセーン監督の長編デビュー作。この映画では、育児休暇を取りたいけれど会社の状況が許さない、それに育児には自信がないからやっぱり子育ては母親の方が向いていると御都合主義に走る若い父親が、とうとう育児ノイローゼになった母親（ふたりは同棲中なので、正しくはガールフレンド）に代わってしぶしぶ子育てに挑戦し、悪戦苦闘しながらも人間として成長していく姿がコミカルに描かれる。これは、スウェーデン社会が数十年前に経験した”少子化”や”父親の育児休暇”という課題について、現在、同じような社会問題に直面している日本の観客に勇気と示唆を与えてくれるタイムリーな内容。

スウェーデンの映画は、ありふれたテーマを客観的かつグローバルな視点でフェアな立場から演出しているところに特徴がある。脚本のステファン・アンヘイムは自分の育児休暇の体験からこの物語を書き、また、パパを演じたエリック・エリクソンはオーディションに子供を連れて現れた。父親休暇実践中のエリックを見て、マリア・エッセーン監督は「彼こそ主人公のヨーナスだ」と直感したそうだ。

ストーリー

ショート・シノプシス

ママは子育て8ヵ月目で疲労困ぱいしてノイローゼに。「今度はパパの番よ」と仕事に復帰してしまった。ところが職場の事情で育児休暇がとれない新米パパは大ピンチ。ダブルシフトな毎日がパパを追い詰めていくのだが…。

ロング・シノプシス

タクシードライバーのヨーナスとTVで天気番組を担当するエマは熱烈同棲中。ふたりは、愛の結晶が誕生しても「子育て」というシビアな現実をきちんと認識していたわけではなかった。ヨーナスは人手不足の会社に父親休暇を言い出せないまま、母親が育児休暇をとって当然とエマに育児を押し付けて8ヵ月が経過。華やかなTV界を離れて一日中育児に明け暮れる生活に疲れたエマはノイローゼになり職場復帰宣言をする。「さあ、今度はあなたの番だわ」。育児をバトンタッチされたヨーナスは、タクシーと育児のダブルシフトでこの苦境を乗り切ろうとする。幸運にも、公園で知り合ったマッチョなライダー、ヨッケは、実は父親休暇中のベテラン。ヨッケに育児指導を受けて大助かりのヨーナス。しかしこんな無理のある二重生活から、ある日とんでもない事件が…。

ダブルシフト―パパの子育て奮闘記 オリジナル・タイトル Som man baddar...
2004年／スウェーデン映画／87分

クレジット

監督：マリア・エッセーン	Maria Essen
脚本：ステファン・アンヘム	Stefan Ahnhem
プロデューサー：レンナート・ドゥネール	Lennart Duner
撮影監督：PA・スヴェンソン	PA Svenson
美術監督：オーサ・イサクソン	Asa Isacsson
編集：クラース・リンドベリ	Clas Linberg
音声：ダニエル・サクスリド	Daniel Saxlid
衣装：ヘイディ・ラーセン	Heide Larsen
メイク：ウルリカ・シュー	Ulrika Sjoo

キャスト

ヨーナス（パパ）：エリック・エリクソン	Eric Ericson
エマ（ママ）：リサ・ヴェリンデル	Lisa Werlinder
ヨッケ：ミカエル・ペシュブランド	Mikael Persbrandt
ヘルゲ：イェンス・フルテーン	Jens Hulten
カイサ：サンナ・ブロディン	Sanna Brading
ニッセ：アレクサンデル・スカシュゴード	Alexsander Skasgard

監督プロフィール●

マリア・エッセーン Maria Essen

ストックホルム大学で映画を勉強した後、テレビの仕事をするが、1993年には奨学金を得てニューヨークへ渡り、コロムビア大学に入学する。95年にはアメリカ・スカンジナビア基金の奨学金を受け、初の短編映画「Ticket to Ride」をアメリカで製作する。同作は９６年度全米の最優秀学生作品としてNYやロサンゼルスを始め、97年ワールドフェスト・ヒューストン、ロチェスター国際映画祭など数々の映画祭で上映され賞賛された。卒業制作の短編「Changing Direction」はラフル・ローレンアワードの最優秀脚本賞、プレミアム・マガジン読者投票による最優秀作品、学生アカデミー賞でもNY地区優勝作品となり、カンヌ国際映画祭を初めとする30以上の映画祭で上映された。

98年、コロムビア大学のスクールオブアートを卒業。映画以外にもNYとストックホルムで、コマーシャルやミュージック・ビデオなどを手掛けている。そのキャリアは、長篇デビューとなったこの作品にも生かされ、スウェーデン気鋭のミュージシャンを集めた音楽やサントラ盤としてみごとに結実している。

現在の仕事は自作の短編「Changing Direction」を長編にリメイクすべく鋭意準備中。1968年、スウェーデン生まれ。独身。

[フィルモグラフィー] 短編「Ticket to Ride」(1995)「Changing Direction」(1999)
脚本「Written in the Sky」「Love Bus」
長編「ダブルシフト-パパの子育て奮闘記」(2005)

出演者プロフィール●

ヨーナス(パパ役)　エリック・エリクソン Eric Ericson

16才の時に人気のテレビシリーズ「Storstad」(90)に出演する。その後、イエテボリ市のドラマスクールを卒業し、ヘルシンボリ市劇場で「ロミオとジュリエット」「マクベス」などの舞台に出演する。スウェーデンの連続ドラマ「De drabbade」(03)で幅広い人気を得て本作の主演を射止めた。05年にはイエテボリ市劇場で「Lasermannnen」に出演、06年１月には新作「Storm」が公開された。過去の映画出演作には「Threat」(04),「Suxxes」(02)「Tsatsiki-friend forever」(02)など。

エマ(ママ役)　リサ・ヴェリンデル Lisa Werlinder

ルレオ大学の演劇科を卒業し、王立劇場でベルイマンらの演出による舞台をつとめたが、テレビシリーズ「SKeppsholmen」(02-03)で人気を得た。アカデミー賞の外国語映画賞にノミネートされたビレ･アウグスト監督の「A Song For Martin」(01)や「ゴシップ」(00)にも出演、03年にはデンマーク映画「The Inheritance」に主演し、Bodil賞にもノミネートされた。スピルバーグ作品「ミュンヘン」にも小さな役で出演、国際的なキャリアをスタートさせた。女優として活躍する一方、ストックホルムの王立音楽アカデミーで学び、ジャズシンガー＆サクソフォン奏者としても活躍している。

ヨッケ(父親休暇中の別のパパ役)　ミカエル・ペシュブランド Mikael Persbrandt

スウェーデンで最も有名な俳優の一人。04年には映画と舞台の活躍に対して「イングマール・ベルイマン・アワード」を受賞した。05年にはデンマーク人監督シモン･スタホの映画「Day and Night」(04)でデンマークのBodil映画賞で主演男優賞を獲得した。ミカエルはストックホルムの王立劇場 (Dramaten)で、長年ベルイマン演出の作品を含む数々の作品を演じてきたが、97年、国際的な人気小説「刑事マルティン･ベック」シリーズの再映画化「ベック」で個性的な刑事グンヴァルド･ラーソン役を演じてその人気がブレイクした。映画出演作は「At Point Blank」(03)、「Everybady Loves Alice」(02), 日本でも公開されたコリン･ナトリー監督の「ゴシップ」(00)など。新作はデンマーク映画の「Bang Bang Orangutang」(05)でレナ･オリーンと共演している。

新米パパを熱演した主演男優 エリック・エリクソンのコメント

Qあなたは、実際に子育てのための育児休暇を経験なさったわけですが、感想を聞かせて下さい。

A子供と一緒に過ごし、その子のために最も重要な責任を持つこと（同時に家事をすること）は偉大な経験であるだけでなく、子供との関係を深める大切な通過点でした。育児休暇をとった父親がいる家族は離婚率が低いという統計もあります。育児休暇中、私と息子のコンラッドとはお互いに密接な関係を築いたと思います。もちろん、時々は退屈でしたが、なんとかなるものです。私は父親休暇が好きでした。

Qいちばん感激した経験は？

A息子のコンラッドが赤ん坊から人間になる成長過程をみたことです。そしてその手助けをしたこと。彼の身近な世界を教えてあげたこと。自分の息子を知り得たことなど、どれもとてもエキサイティングでした。

Q日本ではまだ父親の育児休暇は希ですが、何かアドバイスがありますか？

A日本ではなぜ、まだ父親の育児休暇が広まらないか分かりますよ。スウェーデンでは過去40年もの間、男の育児休暇についてもがき苦しんできたんです。私の父や父と同世代の男たちは私の世代が羨ましくて仕方ないんです。つまり、同じ機会を与えられながら、彼らは「子供を育て家庭の責務を果たすことは女の仕事だ」とみなして育児休暇を受け入れようとしなかった。間違い以外の何物でもありません！子育ては人間としての責務です。家庭を築いたその日から男も女も同等の責任があるのです。

それにスウェーデンでは父親の育児休暇は永遠じゃありません。例えば1週間に1日だけ7年間とることもできるし、2年間ぶっちぎりでとることもできるのです。一般的には3～7ヶ月ですが。私はあくまでも50／50でとるのが公平だと思います。つまり父親と母親がそれぞれ8ヶ月づつ取るのです。その後は保育園に入れます。どちらも職場を長く空けられない場合もありますが、その時は夫婦の選択です。誰にも育児休暇を強制できません。たとえ強制した結果がオーライだとしても。

Qスウェーデンで男性の一般的な意見はどうでしょうか？

A２つに分かれます。1つは何も言わずにやる。もう1つは育児は女性の仕事だというタイプ。男性は職場にいるべきだと育児休暇に抗議する人もいます。つまり給料が必要だし、職場も彼なしではやっていけない場合です。でも父親休暇は給与を保証されています。実際とてもいいんです。それまでの給料の80％が支払われるのですから。例え彼が不可欠な存在だとしても、一人くらいいなくても会社がやっていけないことはないんです。たった8ヶ月のことですからね、長くても。

ダブルシフト
パパの子育て奮闘記

Speakers

講演はいかがでしょうか？

映画「ダブルシフト」の上映といっしょに、専門家あるいは育児体験を持つ講師の方々を招いての講演はいかがでしょうか？日本での現状や体験話をきくことは、映画とはまた違った楽しみであり、発見があるかもしれません。事務局では以下の講師をご紹介いたします。

落合 良
おちあい・りょう

映画「ベアテの贈りもの」製作委員会副代表。山形県鶴岡市出身。青山学院大学文学部英米文学科卒業。58年ソニー株式会社に入社、輸入係、取扱説明書作成、新製品開発プロジェクトリーダー。女性初の管理職となり、ウォークマンのヒットにも一役買う。顧客情報システム構築、心理的価値観分析手法「モノと心の自分軸」の開発、92年には経団連広報機関へ出向、94年ソニーに帰任、トレンドリサーチ担当部長。96年定年退職。在職中に日本の企業人の教養を深め、海外への芸術文化情報を発信する「結の会」を結成し、現在も会長として瀬戸内寂聴脚本、三木稔作曲のオペラ「愛怨」を支援。三木稔「日本史オペラ8連作」の普及活動中。

武石恵美子
たけいし・えみこ

法政大学キャリアデザイン学部助教授。お茶の水女子大学人間文化研究科博士課程修了（博士：社会科学）。労働省（現 厚生労働省）、ニッセイ基礎研究所、東京大学社会科学研究所助教授等を経て、2006年4月より現職。専門は人的資源管理、女性労働論。著書に、『男性の育児休業』（共著、中公新書）、『現代女性の労働・結婚・子育て』（共著、ミネルヴァ書房）、『雇用システムと女性のキャリア』（勁草書房）など。国土審議会計画部会ライフスタイル・生活専門委員会（国土交通省）、東京都男女平等参画審議会（東京都）、少子化と男女共同参画に関する専門調査会（内閣府）等で審議会・委員会活動。

矢野恵美
やの・えみ

東北大学ジェンダー法・政策研究センター研究員。
慶應義塾大学法学部卒業。早稲田大学法学研究科修士課程修了。慶應義塾大学法学研究科後期博士課程退学。ストックホルム大学犯罪学研究科客員研究生を経て現職のほか、武蔵野大学、慶應義塾大学講師。専門は北欧諸国における刑事法、被害者学、ジェンダー法学、DV対策等。

佐藤博樹
さとう・ひろき（53）

東京大学・社会科学研究所　教授。法政大学大原社会問題研究所助教授、同大学経営学部教授を経て、96年より現職。著書に「人事管理入門」（日経新聞社）、「男性の育児休業：社員のニーズ、社会のメリット化」（中公新書）など。労働政策審議会、男女共同参画会議専門調査会、産業構造審議会新成長政策部会、ジョカフェ評価委員会などを兼職。土日は仕事をしないため、講演は平日のみ可能。

宮原淳二
みやはら・じゅんじ（40）

早大・社会科学部卒。
資生堂労働組合・中央執行委員。
社会経済生産性本部認定のキャリアコンサルタント資格を持ち、労務管理、労使交渉、社会貢献活動、メンタルヘルスが専門分野。新入社員へのキャリア形成セミナー講師も担当。06年3月に2週間の短期育児休暇を取得。自身の育児体験、企業の育児休暇制度や取得状況について講演可。8月には（社団法人）企業研究会の主催のイベント「ワーク・ライフ・バランスフォーラム」に東京電力、コンビの男性育児休暇取得者と共にパネラーとして参加。

山田正人
やまだ・まさと（39）

91年に経済産業省に入省。独立行政法人経済産業研究所・総務副ディレクター。経済産業省課長補佐在職中の04年11月から1年間、第3子誕生を機に育児休暇をとる。その体験記を「経産省の山田課長補佐、ただいま育休中」（日経新聞社）につづり、男性の育児休暇の楽しみや苦労の講演も好評。

＊赤松良子さんの講演をご希望の場合は「ベアテの贈りもの」製作委員会（tel:03−5213−8663）へお問い合わせ下さい。

映画 ダブルシフト ―パパの子育て奮闘記

貸し出し規約

1．貸し出し

日本語字幕付きDVDと35ミリ（シネスコ）があります。料金は以下のとおり。

＊DVD上映　1日につき：10万円＋消費税（￥105,000）

＊DVD上映と日本人専門家＆著名人による講演：25万円＋消費税（￥262,500）

貸し出し料に関しては、上映会の有料、無料を問わず同一料金で条件も同じです。

35ミリの貸し出しの場合は上映後、クリーニングして返却下さい。

2. DVD送付と貸し出し中の事故に関して

＊DVDまたはフィルムは基本的に上映会の前日到着で上映翌日の返却となります。

＊送料は上映会主催者の負担でお願いします。

＊返却の際は必ず郵パックまたは宅急便で「こわれ物」「上にものを載せない」のシールを貼って下さい。

＊上映中あるいは返却の際に破損した場合は実費をいただきます。

3．上映会の運営に関して

＊上映会に関わる手配と運営経費（会場費、宣伝費など）は主催者側の負担となります。

4．素材提供に関して

上映会の主催者には、映画のイメージPOP、映画の簡単な内容（キャストの説明を含む）、エッセーン監督のプロフィール、主演男優エリック・エリクソンによる「父親休暇」へのQ&A、場面写真と監督の顔写真（データで提供）を提供します。上映会の趣旨にあわせて主催者側でチラシやパンフレットを作成して下さい。

5．試写に関して

申し込み後、事前に映画の試写をされたい場合はビデオ(英語字幕入り、日本語字幕なし)を貸し出しますが、数に限りがあるので、最長１週間の貸し出しとなります。その送料は主催者（ご依頼者)の負担となります。試写のみでの貸し出しは不可です。

6．後援名義に関して

＊事務局ではスウェーデン大使館から「後援」クレジットを許可されておりますので、各上映会には「スウェーデン大使館　後援」を銘打つことが可能です。「後援」に関して、スウェーデン大使館への直接のお問い合わせはご遠慮下さい。

7．お支払い

＊貸し出し料の値引きはいたしません。上映料のお支払いは上映後１週間以内に全額をお支払い下さい。

口座は下記の通りです。見積書、請求書などが必要な場合はお申し付け下さい。

銀行名：りそな銀行　麻布支店　　口座番号:：０５６９２１６

名義：ソルベーグ有限会社

その他の質問、問い合わせは下記までお願いします。

ダブルシフト上映委員会・事務局/渡辺芳子

東京都港区麻布十番４－４－１－２０４１

電話03－3452－6052(月～金：10:00～17:00)

e-mai l : solveig@u01.gate01.com

http://blog.goo.ne.jp/solveig_2006

映画 ダブルシフト —パパの子育て奮闘記

上映申込書

主催団体名	**代表者名**
担当名	
住所 〒　都道府県	
電話番号	**FAX番号**
携帯電話	**Eメール**
上映会名称	
上映日 年　月　日 ～　年　月　日（　日間）	
上映回数	
上映会場名	**入場料金** 有料（　）円 ・ 無料
上映会場住所 〒　都道府県	
電話番号	**座席数**
映写機 会場備品 ・ 外部持込み	**映写技師** 会場スタッフ ・ 外部スタッフ
フィルム送り先 〒　都道府県	
電話番号	**担当者名**
配送指定日 月　日 午前・午後・夜間	**送料着払い** 可 ・ 不可 （不可の場合は後日請求）
上映形式 35mm フィルム ・ DVD	

申込申請者は本契約において「貸し出し規約」と「上映申込書」に記載された事項に同意し、誠意をもって履行することを誓約します。

年　月　日

申請者氏名：　印